

早いもので、板野中学校を卒業して 15 年が経ちました。今回吉成先生に原稿の依頼を受け、改めて全体学習について振り返る機会を与えてくださったことに感謝しています。

中学生という何かと多感で不安定な時期に全体学習に出会い、私自身救われたというのが率直な思いです。当時の先生方の熱のこもったご指導はもちろんです、何より全体学習そのものの存在が私の心の奥底に眠っていた自分を揺り動かしてくれたように思います。

小学生の頃の私は、前に出るのが苦手で、失敗を恐れ、消極的な性格でした。しかし、中学生になって全体学習と出逢い、自分と同じ立場のクラスメイトが自分の思いを率直に語る姿を目の当たりにし、次第に自分の中で何かが変わっていきました。初めは、「自分も何か言わなければ」という焦りや義務感のような感情から始まったのかもしれませんが。しかし、発言を終えた後には、不思議と充足感がありました。誰かの発言に自分の思いを返していく。自分の思いに誰かが反応してくれる。そこに、“人とつながっている喜び”を無意識に感じ取っていたように思います。この喜びを味わった私は、水を得た魚のように積極的に発言するようになりました。むしろ発言したいという思いを抱くようになってきている自分がいました。

以下に記すのは、私が中学 3 年生の頃に書いた生活ノート(日記の様なもの)の一部です。

【2000.6.7】

今日は 5, 6 時間目に学級で意見作文発表会をした。みんなの意見を聞いていると自分と同じ意見の人や違った人、こんな考え方もあったのかというような意見がたくさんあった。早く他のクラスの作文も聞いてみたいと思う。

【2000.11.13】

〈前略〉明日の板中同研。3-A が中心になるので気合いを入れて発表できるようにしたい。(後悔はしたくない)これからのクラスのムード作りのためにも、まずは自分からという心が大切なんじゃないかなあ。

【2000.11.14】

昨日に続いて板中同研の話。先生の最初の質問に対してはなかなか手があがらなかった。僕は 3 番目くらいに手をあげようかなあと思っていた。でも誰も手があがらなかったので一番目に言うことにした。その後何人か続

いたけど、とぎれてしまった。時間がたつにつれてだんだんと意見が出るようになった。終わってみての感想は、自分としては意見が言えたので後悔はしていない。全体の意見は少ないようだったがいい授業だったと思う。もう 3 年の全体学習は終わりなので、これからは教室の授業などでみんながつながっていったらと思う。

このようなノートの内容を見ていると、自分自身でも心の成長を感じ取ることができます。

小学生の頃には、なかなか前に出られなかった自分が、一番に意見を述べ、理想のクラスまで思い描くようになりました。恩師に勧められ、生徒会長を務めさせていただくまで積極的になりました。私をここまで育ててくださったのは、やはり当時の先生方と全体学習の存在が大きかったのではないかと感じています。

そしてもう一つ、全体学習が私にもたらしてくれたものは、“弱い自分と向き合う”意識です。自分の中の差別意識や卑屈さと向き合い、それをさらけ出す勇気と覚悟は並大抵のものではありませんが、前述のような人となりが語り合う活動の中で、それぞれの悩みや思いに互いに共感し心を開いた付き合いができるようになったように思います。“相手を知るにはまずは自分から”このような意識が私の中に自然と芽生えてきました。そしてそれは、人とかかわる上で今でも心がけている言葉でもあります。

現在私は小学校の教員をしています。これも中学校の経験が大きく影響しています。自分が成長できた喜びを感じられたように、できるだけたくさん子どもたちに同じ思いを味わってほしい、その力になりたいという思いからです。自分の思うようにならず悩むこともありますが、子どもたちや保護者、同僚などの人とのつながりを大切にしながら、これからも頑張っていこうと思います。